商　　業

1　商業科における授業改善等の成果と課題

学習指導要領では、各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の３つの柱「知識及び技能（技術）」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に沿って再整理され、各教科等でどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確化された。これにより、教師が「子供たちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図るために、「指導と評価の一体化」の充実が求められている。

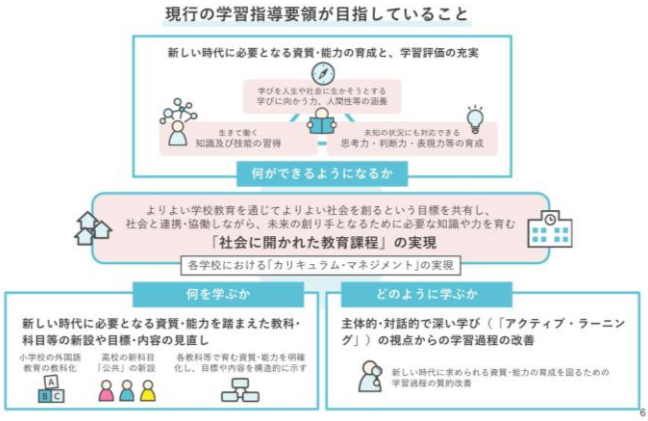


図1　初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和6年12月25日中央教育審議会諮問）

また、未来社会を見据え、生徒の資質・能力を育成するに当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に活かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた授業改善につなげていくことが重要である。

北海道教育委員会では、各教科等教育課程研究協議会や北海道高等学校教育課程研究協議会、学校訪問等を実施するとともに、各種研究会や、各管内における教科研修会等を通して、次のような教育課程上の成果と課題を把握した。

	成果	課題
全体	・現行の学習指導要領における「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を推進している学校が増加している。 ・各種研究協議会を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図られている。 ・生徒が主体的に活動できるよう、心理的安全性を担保した授業づくりが増えてきた。 ・授業におけるICT活用の取組が充実している学校が増加している。	・自分の考えをもち、根拠をもって明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒の育成することに難しさを感じている授業が見られる。 ・習得した知識を現実の事象と関連付けて理解し、概念としての知識の習得や深い理解をさせることに課題がある授業が見られる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の必要性について、校内における教員間の認識の差がある。 ・生徒を主語にした授業の在り方について、校内で一層研鑽する必要性がある。
商業科	・授業等改善セミナーにおいて、「探究的な学び」の視点に基づいた協議を行い、生徒の主体性を育む方策を共有し、多くの学校で実践している。 ・ビジネスに関する課題を発見・解決する学習を重視し、主体的・協働的な学びの充実が図られている。 ・ICTの活用について、ビジネス情報分野の科目を中心に、情報を活用する資質・能力の育成を進めている。 ・地域や社会の持続的な発展を担う職業人の育成に向け、企業・地域と連携した実践的な学習を推進している。	・質の高い「探究的な学び」の実現において、ICTを効果的に活用することへの研鑽が必要である。 ・探究的な学習が「課題研究」に偏りやすく、１年次から系統的に課題解決能力を育成する取組が不十分。 ・「情報Ⅰ」への対応やデータサイエンス、生成AI等を含め、さらなる情報活用能力の育成に努める必要がある。 ・商業で学ぶ知識・技術と実際の職業との関連について、生徒がより具体的に理解できる学習活動の充実が必要である。

2　学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 資質・能力の３つの柱と評価の観点を対応させた学習評価の可視化

現行学習指導要領における教科「商業」の目標では、目指すべき資質・能力について、知識・技術の学習活動として、次の例示がされている。

> ○ビジネスに関する理論について実験などにより確認する学習活動
> ○ビジネスに関する新聞記事やニュースなどについて知識と技術を総合的に活用して生徒自らが解説する学習活動
> ○ビジネスに関する知識をビジネスの具体的な事例と関連付けて考察する学習活動
> ○商業の学習と職業との関連について理解を深める学習活動

こうした学習の過程を通した知識及び技術の習得状況を評価するとともに、それらを既有の知識及び技術と関連付け、ビジネスの場面で活用できる知識及び技術として身に付けているかを評価することが求められる。

また、思考力・判断力・表現力等の学習活動として、次の例示がされている。

> ○実際のビジネスを俯瞰する中で、ビジネスに関する知識と技術のみならず、様々な教科・科目等で身に付けた知識、技術などを活用し、ビジネスに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動
> ○具体的なビジネスの場面を想定し、ビジネスを担う当事者としての意識を高め、経済や市場の動向、ビジネスに関する理論やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて多面的・多角的に分析し、考察や討論を行い、課題の解決策を考案し、評価・改善する学習活動
> ○地域の資源を活用した商品開発、地域産業の振興策や情報技術を活用した合理的なビジネスを展開する方策の考案・提案と評価・改善、商標やパッケージデザインの考案と評価・改善、ビジネスに関するウェブページの制作などを行う学習活動、模擬的な企業経営や取引先の開拓など実際のビジネスに即した体験の中で発生する様々な課題に対して試行錯誤しながら課題を解決していく学習活動

こうした学習活動を通して、知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価することが求められる。

さらに、主体的に学習に取り組む態度の学習活動として、次の例示がされている。

> ○他者との討論により課題の解決策の考案などを行う学習活動
> ○他者の考えに耳を傾け、対立する意見であってもそれを踏まえながら自己の考えを整理し伝える学習活動
> ○地域を学びのフィールドとして、様々な職業や年代の地域住民などとつながりをもちながら信頼関係を構築し、協働して課題の解決などに取り組む学習活動
> ○職業資格の取得やコンクールへの挑戦などを通して自ら学ぶ意欲を高める学習活動
> （※職業資格の取得やコンクールへの挑戦については、目的化しないよう留意して取り扱う）

こうした学習活動を通して、このことから、単に継続的な行動や積極的な発言など、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、知識及び技術や思考力・判断力・表現力等を身に付けるために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方を工夫・改善しながら粘り強く学習に取り組もうとしているかという主体的に学習に取り組む態度を評価することが求められる。

(2) 学習指導における評価の場面の精選

学習指導における評価は、毎時間全ての観点について評価を行う必要はなく、単元や学習のまとまり全体を通して育成を目指す資質・能力を明確にし、評価場面を計画的に設定することが重要である。

思考力、判断力、表現力等の評価にあたっては、生徒が身に付けた知識及び技術を活用してビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて合理的かつ創造的に解決しようとしているかを見取ることが重要である。

思考力、判断力、表現力等を把握する評価場面として以下のような活動が考えられる。

○市場調査やデータ分析を基に販売戦略を立案する活動
○企業の経営課題や地域課題について考察・討論する活動
○商品開発やビジネスプランを企画・提案する活動
○プレゼンテーションやディスカッションを通して自らの考えを説明し他者の意見を踏まえて改善する活動

また、これらの資質・能力は一時間の授業で十分に把握できるものではないため、単元全体を見通した指導計画の中で、レポート、ワークシート、発表資料、プレゼンテーション、討論、実習成果物など複数の評価資料を計画的に収集し、生徒の思考の変容や深まりを総合的に評価することが求められる。評価場面を精選し、単元全体を通して継続的に評価することで、評価のための評価に陥ることなく、指導と評価の一体化が実現できる。

3　指導と評価の計画例

(1) 科目「ビジネス・コミュニケーション」指導項目　「(3) ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション」の計画例

ア　単元の目標

(ｱ)　ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。

(ｲ)　ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じて思考してコミュニケーションを図り、評価・改善する。

(ｳ)　ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて自ら学び、ビジネスにおいて適切に思考してコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む。

イ　単元の評価規準

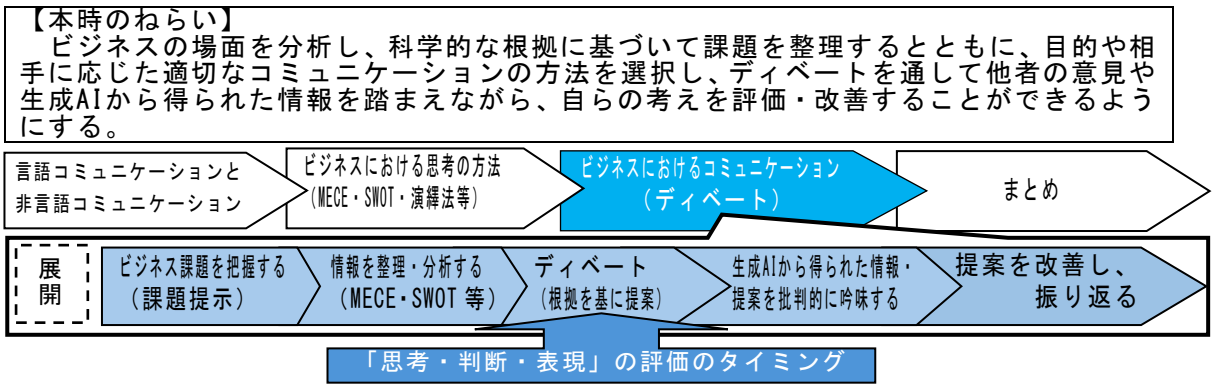
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスにおける思考の方法及びコミュニケーションについて、実務と関連付けて理解するとともに、言語及び非言語コミュニケーション、論理的思考及び分析方法に関する基礎的・基本的な知識と技能を身に付けている。	ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて課題を整理するとともに、目的や相手に応じて適切なコミュニケーションの方法を選択し、協働的な活動を通して評価・改善している。	ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて自ら学び、組織の一員として他者を尊重しながら主体的・協働的に課題の解決に取り組もうとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（５時間）

次 【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 （生徒のＢ規準・評価方法）
第１次 【1~2時間】	習得	ア言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション ■コミュニケーションの役割と種類 **言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの特徴や役割について理解する。** ・ビジネスの場面を想定した事例から、コミュニケーションの課題を考察する。 ・言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションが相手に与える影響について整理する。 ■ビジネス・コミュニケーションの基本 **ビジネス・コミュニケーションの目的や意義を理解するとともに、相手や目的、場面に応じた適切なコミュニケーションの在り方について考える。** ・挨拶、言葉遣い、表情、視線、姿勢などについて事例を基に考察する。 ・ロールプレイを通して、相手や目的に応じたコミュニケーションを実践する。	知	○	・言語及び非言語コミュニケーションの特徴や役割について理解し、ビジネスの場面に応じて適切なコミュニケーションの必要性を説明している。 ワークシート、発言
	活用	イ　ビジネスにおける思考の方法 ■　ビジネスにおける思考方法 **論理的な思考法を理解し、課題の整理や分析に活用する。** ・演繹法、帰納法、MECEなどの思考法について理解する。 ・身近な事例を用いて情報を整理・分析する。	知		・思考法の特徴を理解し、課題の整理や分析に適切に活用している。 分析シート、ワークシート
第２次 【3~4時間】	活用	ウ　ビジネスにおけるコミュニケーション ■ディベート（会議形式による実習） **課題分析の結果を基に、目的や相手に応じたコミュニケーションを図る。** ・ビジネスの場面を想定したディベートを行い、グループで提案内容を協議する。 ・相手や目的に応じた表現や説明の方法を工夫する。 ・必要に応じて生成 AI から得られた情報や提案の信頼性や妥当性を吟味し、その内容を踏まえて自らの考えを評価・改善する。	思	○	・ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて課題を整理するとともに、目的や相手に応じた適切なコミュニケーションの方法を選択し、他者の意見や生成 AI から得られた情報を踏まえて、自らの考えを評価・改善している。 発表、観察、ワークシート
第３次 【5時間】	探究	■まとめ **単元を通して身に付けた資質・能力を振り返り、今後の学習やビジネスの場面での活用について考える。** ・学習の成果と課題を整理する。 ・今後のビジネスの場面での活用について考察する。	主	○	・単元の学習を振り返り、自らの学習の成果や課題を整理するとともに、今後の学習やビジネス場面での活用について考えている。 振り返りシート、自己評価シート

エ　学習指導案（３～４時間目／５時間中）

本時のねらいを踏まえ、第１次で学習した言語・非言語コミュニケーション及びビジネスにおける思考の方法を基に、ビジネスの場面を想定したディベートを行う学習である。科学的な根拠に基づいて課題を整理し、目的や相手に応じたコミュニケーションの方法を選択するとともに、他者との協議や生成AIから得られた情報の吟味を通して、自らの考えを評価・改善する力を育成する。



オ　本単元における学習の進め方や学習評価の工夫

(ｱ) 思考力・判断力・表現力等を育成する指導の工夫

本単元では、第１次で学習した言語・非言語コミュニケーション及びビジネスにおける思考の方法を基に、ビジネスの場面を想定したディベートを取り入れた。生徒が、科学的な根拠に基づいて課題を整理し、他者との協議を通して自らの考えを評価・改善する学習活動を設定した。

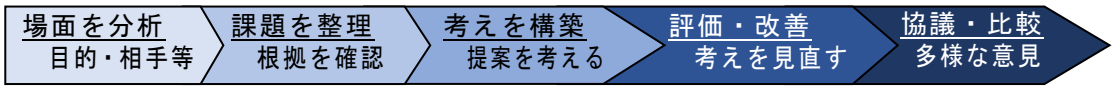


図２　課題分析から提案の評価・改善までの学習の流れ

思考・判断・表現の評価に当たっては、課題分析、協議及び提案の改善の過程をワークシートや発言等から総合的に見取ることとした。

(ｲ) ICT・生成AIを活用した学習評価の工夫（なぜそのように評価するのか）

本単元では、ディベート後の改善活動に生成AIを活用し、多様な視点を得ながら自らの考えを評価・改善する学習活動を設定した。評価に当たっては、生成AIを活用したこと自体ではなく、得られた情報の信頼性や妥当性を吟味し、自らの考えをどのように評価・改善したかを重視した。



図３　ICT・生成AIを活用した学習と評価の流れ

その過程を、改善前後のワークシートや振り返りシートから見取り、思考・判断・表現及び主体的に学習に取り組む態度の評価に活用することとした。

(ｳ) 評価の実践事例（実際にどう評価するのか）

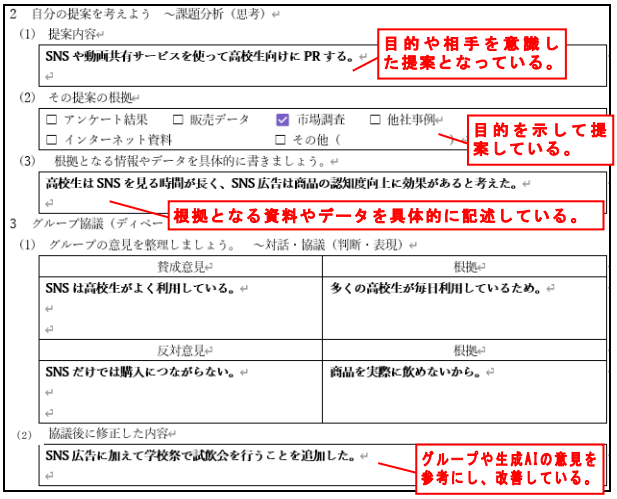
本単元では、「思考・判断・表現」の評価について、ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて課題を整理するとともに、目的や相手に応じたコミュニケーションの方法を選択し、他者との協議や生成AIから得られた情報を踏まえて、自らの考えを評価・改善しているかを見取ることとした。評価に当たっては、ディベートにおける発言内容及びワークシートを基に、生徒の思考の過程や改善の様子を総合的に判断した。

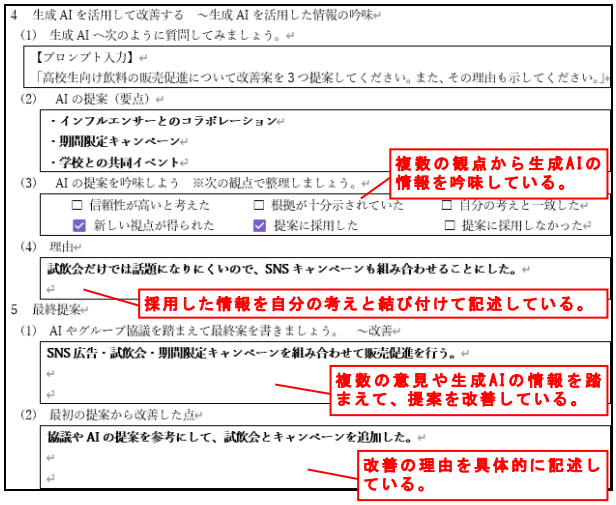
評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
思考・判断・表現	ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて課題を整理するとともに、目的や相手に応じたコミュニケーションの方法を選択し、自らの考えをおおむね評価・改善している。	ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠を明確に示して課題を整理するとともに、目的や相手に応じた適切なコミュニケーションの方法を選択し、他者の意見や生成AIから得られた情報の信頼性や妥当性を吟味しながら、自らの考えを評価・改善している。	ビジネスの場面を分析したり、科学的な根拠に基づいて課題を整理したりすることが十分できず、目的や相手に応じたコミュニケーションの方法を選択することができていない。【手立て】課題分析の視点（目的・相手・根拠）を整理したワークシートを用いて思考の過程を確認するとともに、他者との協議や生成AIから得られた情報を比較・検討させながら、自らの考えを整理・改善できるよう支援する。

(ｴ) 思考・判断・表現の評価の具体例（ワークシート）

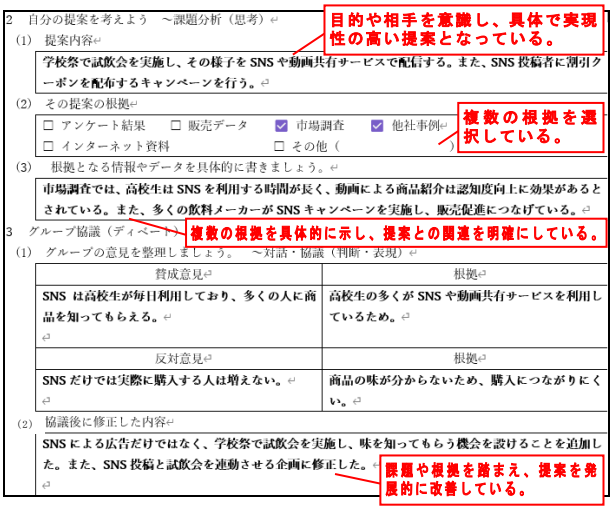
本時では、課題分析、ディベート、生成AIを活用した改善及び振り返りの場面において、生徒の思考・判断・表現の過程を把握するため、ワークシートを活用した。ワークシートには、課題分析の内容、他者との協議を踏まえた改善点、生成AIから得られた情報に対する考察及び学習の振り返りを記述させることで、生徒が自らの考えを評価･改善した過程を継続的に見取ることができるようにした。

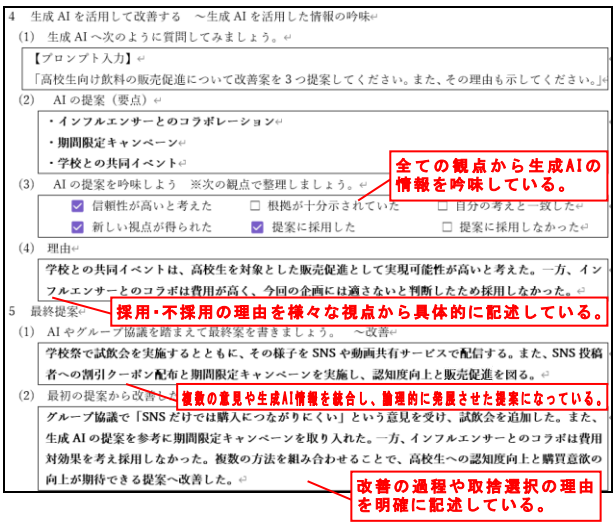
○「おおむね満足できる」状況（B評価）の記述例





○「十分満足できる」状況（A評価）の記述例



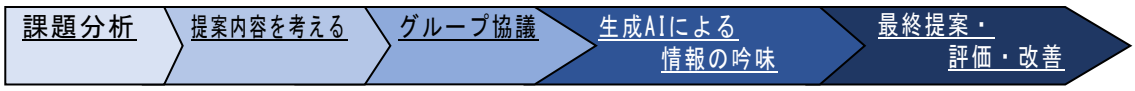


○「努力を要する」状況（C評価）の記述例

具体的な記述例については、多様な記述が想定されるため省略する。

(ｵ) 評価の流れ、評価の具体例及びC評価の生徒への支援

本単元では、ワークシートにおける「課題分析→提案→協議→生成AIによる情報の吟味→最終提案」の一連の過程を基に、生徒が自らの考えを形成し、評価・改善していく様子を見取り、「思考・判断・表現」を評価した。



※各段階における記述内容や発言、提案の改善の過程を基に総合的に評価する。

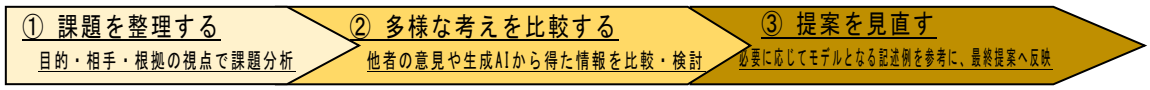
図４　評価の流れ

【評価の具体例】

評　価	見取る姿
B評価 おおむね満足できる	課題分析を踏まえて提案し、目的や相手を意識するとともに、**他者の意見や生成AIから得た情報を参考にしながら**、自らの考えを**評価・改善**している。
A評価 十分満足できる	課題分析を踏まえ、**根拠を明確にして提案**している。さらに、他者の意見や生成AIから得た情報について、**信頼性や妥当性を吟味**し、採用・不採用を判断した上で、自らの考えを**評価・改善**している
C評価 努力を要する	課題分析や提案の根拠が十分ではなく、他者の意見や生成AIから得た情報を踏まえた**評価・改善することができない**。

○　C評価の生徒への支援

C評価の生徒に対しては、「目的・相手・根拠」の視点から課題分析を整理させた上で、グループ協議を通して他者の意見を比較・検討させる。さらに、生成AIから得た情報について信頼性や妥当性を確認させ、自らの提案を見直すよう促す。必要に応じて、モデルとなる記述例を示すなど、段階的に最終提案へ反映できるよう支援する。



※生徒のつまずきの状況に応じて、モデルとなる記述例を示したり、他者との協議を通して考えを整理させたりする。

図５　C評価の生徒への支援図

(2) 科目「ビジネス・コミュニケーション」指導項目「(2)ビジネスマナー」の計画例

ア　単元の目標

(ｱ)　応対に関するビジネスマナーについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。

(ｲ)　応対に関するビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じてビジネスマナーを実践し、評価・改善する。

(ｳ)　応対に関するビジネスマナーについて自ら学び、ビジネスにおける他者への対応に主体的かつ協働的に取り組む。

イ　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
応対に関するビジネスマナーについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	応対に関するビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じてビジネスマナーを実践し、評価・改善している。	応対に関するビジネスマナーについて自ら学び、ビジネスにおける他者への対応に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

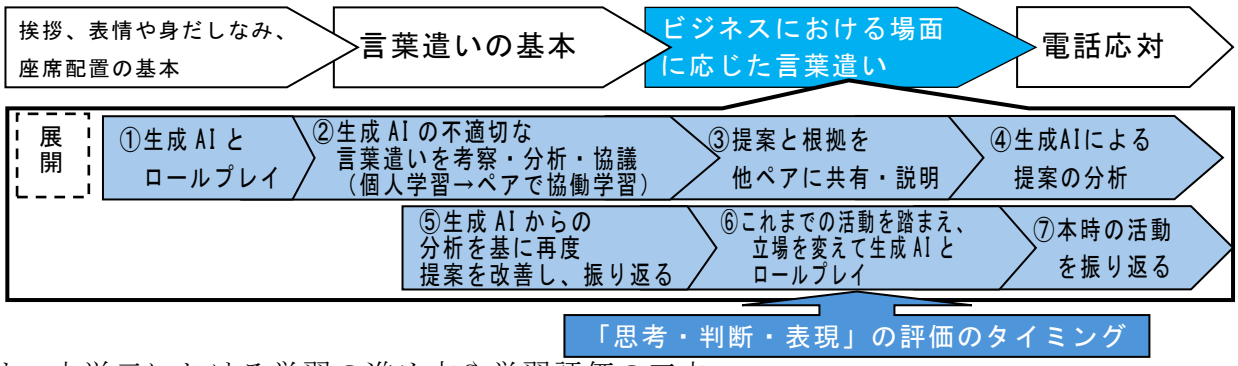
ウ　単元の指導と評価の計画（８時間）

次 【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 （生徒のＢ規準・評価方法）
第１次 【1～4時間】	習得	ア応対におけるビジネスマナー ■お辞儀の使い分けと場面に応じた挨拶 ■表情・身だしなみ・身のこなしが与える第一印象 ■座席配置 ■言葉遣いの基本	知	○	・挨拶、表情や身だしなみ、座席配置、言葉遣いに関するビジネスマナーについて実務に即して理解するとともに、場面に応じて適切に実践できる技術を身に付けている。 ワークシート、発言
第２次 【5～6時間】	活用	■場面に応じた言葉遣い **ビジネスにおける場面に応じた言葉遣いや表現について考察・分析・改善し、場面に応じた円滑なコミュニケーションを図る。** ・不適切な言葉遣いをする生成AIとロールプレイを行い、不適切な点を考察・分析する。適切な表現や改善案について科学的な根拠に基づいてペアで協議する。他ペアへ意見を説明・共有する。 ・協議では必要に応じて生成AIを活用し、示された情報の信頼性や妥当性を吟味する。 ・既習の敬語やビジネスマナーを意識して生成AIに改善点を提案し、客観的な評価・分析を受けて表現の適切さを振り返る。 ・立場を変えて生成AIと再度ロールプレイを行い、適切な言葉遣いを実践して振り返ることでビジネスマナーへの理解を深める。	思	○	・ビジネスにおける場面に応じた言葉遣いを考察し、科学的な根拠に基づいて、課題を発見及び整理するとともに、他者の意見や生成AIが示した情報を踏まえて、場面に応じたビジネスマナーを実践し、評価・改善している。 観察、発言 Googleスプレッドシート
第３次 【7時間】	習得	■電話応対の基本	知		・電話応対に関するビジネスマナーについて実務に即して理解するとともに、場面に応じて適切に実践できる技術を身に付けている。 ワークシート、発言
第４次 【8時間】	探究	■想定外の場面における電話応対	主	○	・電話応対について自ら学び、ビジネスにおける他者への対応に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 観察 Googleスプレッドシート

エ　学習指導案（５～６時間目／８時間中）

本時のねらいを踏まえ、応対におけるビジネスマナーの基本である「場面に応じた適切な言葉遣い」を身に付け、実践するためには前時で学習した敬語の種類や使い分け、クッション言葉などを適切に活用することが必要である。そこで本時は、ビジネスにおける場面に応じた言葉遣いを考察し、科学的な根拠に基づいて、課題を発見及び整理するとともに、他者の意見や生成AIが示した情報を踏まえて、場面に応じたビジネスマナーを実践し、評価・改善する力を育成する。

【本時のねらい】
ビジネスにおける場面に応じた言葉遣いを考察し、科学的な根拠に基づいて課題を発見及び整理するとともに、他者の意見や生成AIが示した情報を踏まえて、場面に応じたビジネスマナーを実践し、評価・改善することができるようになる。



オ　本単元における学習の進め方や学習評価の工夫

(ｱ) 思考力・判断力・表現力等を育成する指導の工夫

第２次では、第１次で学習した敬語の種類や使い分け、クッション言葉等の知識を基に、生成AIを用いたロールプレイと協働学習を取り入れた。生徒が科学的な根拠に基づいてロールプレイの言葉遣いについて考察し、他者の意見や生成AIによる客観的な分析を踏まえて思考を深める学習活動を設定した。

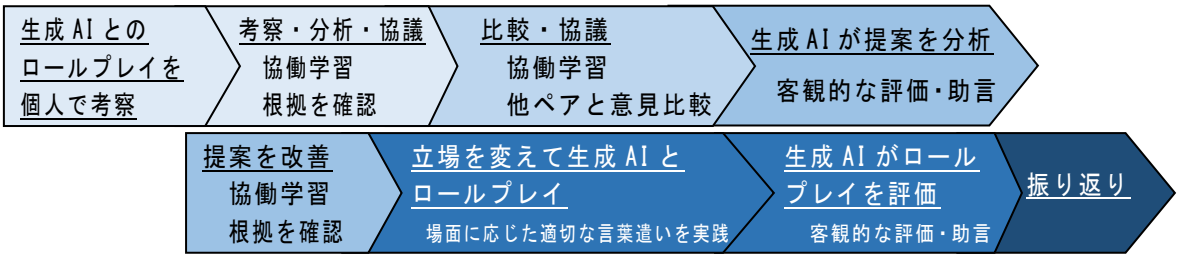


図６　課題分析から提案の評価・改善、自己評価までの学習の流れ

思考・判断・表現の評価に当たっては、協働学習や生成AIの客観的な情報を踏まえて課題を発見・整理し、根拠に基づいて提案内容の改善を繰り返す様子をGoogleスプレッドシートの記述、協議における発言等から総合的に見取ることとした。

(ｲ) ICT・生成AIを活用した学習評価の工夫（なぜそのように評価するのか）

本時は、生成AIを「ロールプレイの対話相手」だけでなく「客観的な評価者」としても位置付けている。生徒の提案に対して生成AIが客観的な分析を返すことで、生徒は多角的な視点から改善点や根拠を考え、より適切な表現へと試行錯誤を重ねることができる。

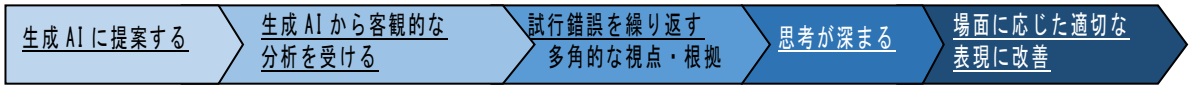


図７　ICT・生成AIを活用した学習と評価の流れ

こうした試行錯誤の過程や思考の深まりをGoogleスプレッドシートから見取り、思考・判断・表現及び主体的に学習に取り組む態度の評価に活用することとした。

(ｳ) 評価の実践事例（実際にどう評価するのか）

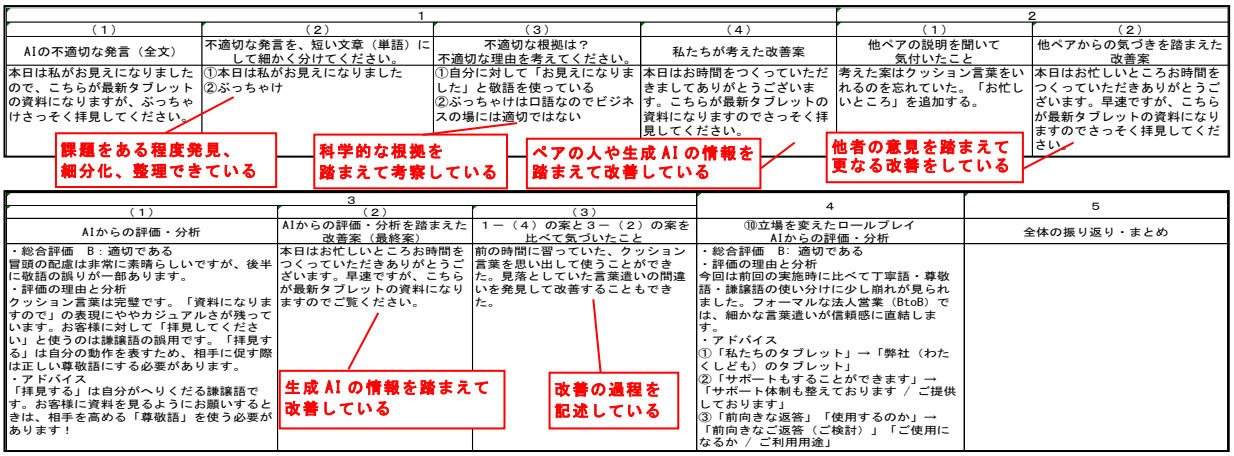
本単元では、思考・判断・表現について、応対に関するビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じてビジネスマナーを実践し、評価・改善しているかを見取ることとした。本時の評価に当たっては、協働学習やロールプレイを通して発見した課題やその改善点､根拠を記述したGoogleスプレッドシートを基に、生徒の思考の過程や改善の様子を総合的に評価する。

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
思考・判断・表現	ビジネスにおける場面に応じた言葉遣いを考察し、科学的な根拠に基づいて、課題を発見及び整理するとともに、場面に応じたビジネスマナーを実践し、自らの対応をおおむね評価・改善している。	ビジネスにおける場面に応じた言葉遣いを考察し、科学的な根拠に基づいて、課題を発見及び整理するとともに、他者の意見や生成AIが示した情報を踏まえて、場面に応じたビジネスマナーを実践し、評価・改善している。	ビジネスにおける場面に応じた言葉遣いを考察したり、科学的な根拠に基づいて課題を発見・整理したりすることが十分にできず、場面に応じたビジネスマナーを実践することができていない。
【評価Cの生徒に対する手立て】 どの段階でつまずいているのか生徒に確認し、その段階に応じて既習の内容を示したり、他者の意見を参考にさせたりして思考が深まるように支援する。			

(ｴ) 思考・判断・表現の評価の具体例（ペア学習のワークシート）

本時は、生徒の思考・判断・表現の過程を把握するため、Googleスプレッドシートを活用した。Googleスプレッドシートには、ペアでの協議、他のペアとの意見共有、生成AIからの評価という各段階で改善案が更新されていく様子を記述させることとした。生徒が自らの思考の過程を可視化でき、振り返りながら思考を深められるようにするとともに、教師がその思考の過程を見取ることができるようにした。

○「おおむね満足できる」状況（B評価）の記述例



1				2	
（1） AIの不適切な発言（全文）	（2） 不適切な発言を、短い文章（単語）にして細かく分けてください。	（3） 不適切な根拠は？ 不適切な理由を考えてください。	（4） 私たちが考えた改善案	（1） 他ペアの説明を聞いて気付いたこと	（2） 他ペアからの気づきを踏まえた改善案
本日は私がお見えになりましたので、こちらが最新タブレットの資料になりますが、ぶっちゃけさっそく拝見してください。	①本日は私がお見えになりました ②ぶっちゃけ	①自分に対して「お見えになりました」と敬語を使っている ②ぶっちゃけは口語なのでビジネスの場には適切ではない	本日はお時間をつくっていただきましてありがとうございます。こちらが最新タブレットの資料になりますのでさっそく拝見してください。	考えた案はクッション言葉をいれるのを忘れていた。「お忙しいところ」を追加する。	本日はお忙しいところお時間をつくっていただきありがとうございます。早速ですが、こちらが最新タブレットの資料になりますのでさっそく拝見してください。

課題をある程度発見、細分化、整理できている

科学的な根拠を踏まえて考察している

ペアの人や生成AIの情報を踏まえて改善している

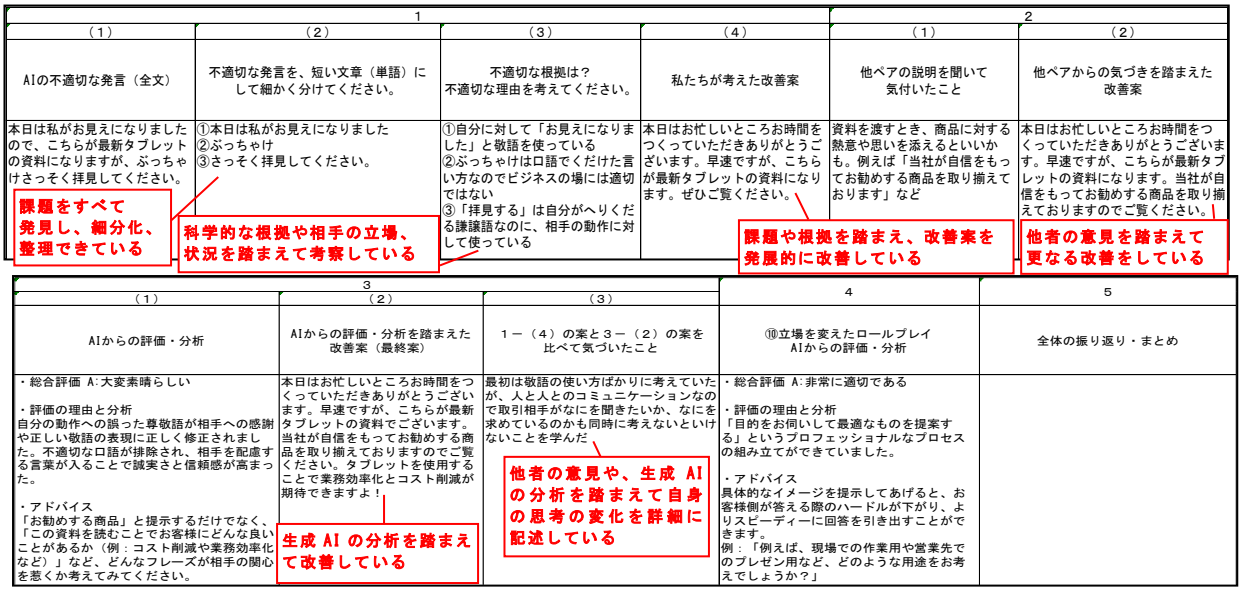
他者の意見を踏まえて更なる改善をしている

3			4	5
（1） AIからの評価・分析	（2） AIからの評価・分析を踏まえた改善案（最終案）	（3） 1－（4）の案と3－（2）の案を比べて気づいたこと	⑩立場を変えたロールプレイ AIからの評価・分析	全体の振り返り・まとめ
・総合評価　B：適切である 冒頭の配慮は非常に素晴らしいですが、後半に敬語の誤りが一部あります。 ・評価の理由と分析 クッション言葉は完璧です。「資料になりますので」の表現にややカジュアルさが残っています。お客様に対して「拝見してください」と使うのは謙譲語の誤用です。「拝見する」は自分の動作を表すため、相手に促す際は正しい尊敬語にする必要があります。 ・アドバイス 「拝見する」は自分がへりくだる謙譲語です。お客様に資料を見るようにお願いするときは、相手を高める「尊敬語」を使う必要があります！	本日はお忙しいところお時間をつくっていただきありがとうございます。早速ですが、こちらが最新タブレットの資料になりますのでご覧ください。	前の時間に習っていた、クッション言葉を思い出して使うことができた。見落としていた言葉遣いの間違いを発見して改善することもできた。	・総合評価　B：適切である ・評価の理由と分析 今回は前回の実施時に比べて丁寧語・尊敬語・謙譲語の使い分けに少し崩れが見られました。フォーマルな法人営業（BtoB）では、細かな言葉遣いが信頼感に直結します。 ・アドバイス ①「私たちのタブレット」→「弊社（わたくしども）のタブレット」 ②「サポートもすることができます」→「サポート体制も整えております／ご提供しております」 ③「前向きな返答」「使用するのか」→「前向きなご返答（ご検討）」「ご使用になるか／ご利用用途」	

生成AIの情報を踏まえて改善している

改善の過程を記述している

○「十分満足できる」状況（A評価）の記述例



1				2	
（1） AIの不適切な発言（全文）	（2） 不適切な発言を、短い文章（単語）にして細かく分けてください。	（3） 不適切な根拠は？ 不適切な理由を考えてください。	（4） 私たちが考えた改善案	（1） 他ペアの説明を聞いて気付いたこと	（2） 他ペアからの気づきを踏まえた改善案
本日は私がお見えになりましたので、こちらが最新タブレットの資料になりますが、ぶっちゃけさっそく拝見してください。	①本日は私がお見えになりました ②ぶっちゃけ ③さっそく拝見してください。	①自分に対して「お見えになりました」と敬語を使っている ②ぶっちゃけは口語でくだけた言い方なのでビジネスの場には適切ではない ③「拝見する」は自分がへりくだる謙譲語なのに、相手の動作に対して使っている	本日はお忙しいところお時間をつくっていただきありがとうございます。早速ですが、こちらが最新タブレットの資料になります。ぜひご覧ください。	資料を渡すとき、商品に対する熱意や思いを添えるといいかも。例えば「当社が自信をもっておすすめする商品を取り揃えております」など	本日はお忙しいところお時間をつくっていただきありがとうございます。早速ですが、こちらが最新タブレットの資料になります。当社が自信をもっておすすめする商品を取り揃えておりますのでご覧ください。

課題をすべて発見し、細分化、整理できている

科学的な根拠や相手の立場、状況を踏まえて考察している

課題や根拠を踏まえ、改善案を発展的に改善している

他者の意見を踏まえて更なる改善をしている

3			4	5
（1） AIからの評価・分析	（2） AIからの評価・分析を踏まえた改善案（最終案）	（3） 1－（4）の案と3－（2）の案を比べて気づいたこと	⑩立場を変えたロールプレイ AIからの評価・分析	全体の振り返り・まとめ
・総合評価 A:大変素晴らしい ・評価の理由と分析 自分の動作への誤った尊敬語が相手への感謝や正しい敬語の表現に正しく修正されました。不適切な口語が排除され、相手を配慮する言葉が入ることで誠実さと信頼感が高まった。 ・アドバイス 「お勧めする商品」と提示するだけでなく、「この資料を読むことでお客様にどんな良いことがあるか（例：コスト削減や業務効率化など）」など、どんなフレーズが相手の関心を惹くか考えてみてください。	本日はお忙しいところお時間をつくっていただきありがとうございます。早速ですが、こちらが最新タブレットの資料でございます。当社が自信をもっておすすめする商品を取り揃えておりますのでご覧ください。タブレットを使用することで業務効率化とコスト削減が期待できますよ！	最初は敬語の使い方ばかりに考えていたが、人と人とのコミュニケーションなので取引相手がなにを聞きたいか、なにを求めているのかも同時に考えないといけないことを学んだ	・総合評価 A:非常に適切である ・評価の理由と分析 「目的をお伺いして最適なものを提案する」というプロフェッショナルなプロセスの組み立てができていました。 ・アドバイス 具体的なイメージを提示してあげると、お客様側が答える際のハードルが下がり、よりスピーディーに回答を引き出すことができます。 例：「例えば、現場での作業用や営業先でのプレゼン用など、どのような用途をお考えでしょうか？」	

生成AIの分析を踏まえて改善している

他者の意見や、生成AIの分析を踏まえて自身の思考の変化を詳細に記述している

○「努力を要する」状況（C評価）の記述例

具体的な記述例については、多様な記述が想定されるため省略する。

(オ) 評価の流れ、評価の具体例及びC評価の生徒への支援

本時は、ワークシートにおける「協議・意見比較・改善→生成AIによる提案の分析→改善・再提案→立場を変えて生成AIとロールプレイ→生成AIによる分析→振り返り」の一連の過程を基に、協働学習や生成AIによる分析を踏まえて生徒が自らの考えや対応を評価・改善していく様子を見取り、「思考・判断・表現」を評価した。



図８　評価の流れ　　※各段階における記述内容や発言、提案の改善の過程を基に総合的に評価する。

【評価の具体例】

評　価	見取る姿
B評価 おおむね満足できる	ロールプレイの課題について**考察**し、**改善点を提案**している。さらに、**他者の意見や生成AIから得た分析を概ね参考**にしながら、場面に応じたビジネスマナーに関する自らの考えや対応を**評価・改善**している。
A評価 十分満足できる	ロールプレイの課題について**考察・整理**し、**根拠を明確にして改善点を提案**している。さらに、**他者の意見や生成AIから得た分析を踏まえて**場面に応じたビジネスマナーに関する自らの考えや対応を**評価・改善**している。
C評価 努力を要する	ロールプレイの課題について**考察や提案の根拠が十分ではなく**、他者の意見や生成AIから得た分析を踏まえて場面に応じたビジネスマナーに関する自らの考えや対応を**評価・改善することができない。**

○　C評価の生徒への支援

「課題の発見・整理が困難な生徒」には、対話記録を１つに絞らせ、第１次の学習内容を振り返りながら科学的な根拠の視点から個別指導する。「考察に行き詰っている生徒」には、生成AIの活用やスプレッドシート上の他者の記述を参考にさせ、多角的な視点をもたせる。「実践（ロールプレイ）に至らない生徒」には、Googleスプレッドシートの記述や対話の流れ、協議内容を１つ１つ確認し、段階を踏んで整理させることで自信をもって実践に臨めるよう支援する。



図９　C評価の生徒への支援図

４　主体的・対話的で深い学びの実現に向けたチェックリスト

本チェックリストは、科目「ビジネス・コミュニケーション」において、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図るためのものである。単元「ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション」では、ビジネスの場面を想定したディベートや協議、生成AI等を活用した情報の吟味を通して、生徒が科学的な根拠に基づいて課題を整理し、目的や相手に応じた適切なコミュニケーションの方法を選択するとともに、自らの考えを評価・改善する学習活動を重視することが求められる。単元「ビジネスマナー」では、ビジネスの場面を想定したロールプレイや協議、生成AIによる分析を通して、生徒が科学的な根拠に基づいて課題を整理し、場面や相手に応じたビジネスマナーを実践するとともに、

他者や生成AIの指摘を踏まえて自らの考えや応対を評価・改善する学習活動を重視することが求められる。授業づくりや学習評価を見直す際の視点として、次のチェックリストを用いて、日頃の指導や評価を振り返っていただきたい。

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	□学ぶことに興味や関心をもつ □自己のキャリア形成の方向性と関連付ける □見通しをもつ □粘り強く取り組む □自己の学習活動を振り返って次につなげる	□既習事項を振り返る □具体物や例を提示して引きつける □生徒が明らかにしたくなる学習課題を設定する □生徒が自ら本時の目標をつかむようにする □学習課題を解決する方向性について見通しをもたせる □生徒が自分の考えをもつようにする □生徒の思考を見守る □生徒の思考に即した授業展開を考える □生徒の考えを生かしてまとめる □その日の学びを振り返る □新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	□生徒同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める □教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める □地域の人など多様な他者との対話やICT等の活用を通じ、自己の考えを広げ深める □先哲の考え方を手掛かりに考える	□思考を交流させる □交流を通じて思考を広げる □協働して問題解決する □板書や発問で教師が生徒の学びを引き出す □ICTや生成AI等を活用し、情報の信頼性や妥当性を吟味しながら、多様な考えに触れさせる
深い学び	□各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる □知識を相互に関連付けてより深く理解する □情報を比較・分析し、根拠を基に考えを形成する □問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	□資質・能力を焦点化する （身に付けさせたい力を明確にする） □単元や各授業の目標を把握する □ねらいを達成した生徒の姿を具現化する □教材の価値を把握する □単元及び各時間の計画を立てる □目標の達成状況を評価する

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（令和２年６月文部科学省　国立教育政策研究所）を基に一部加筆